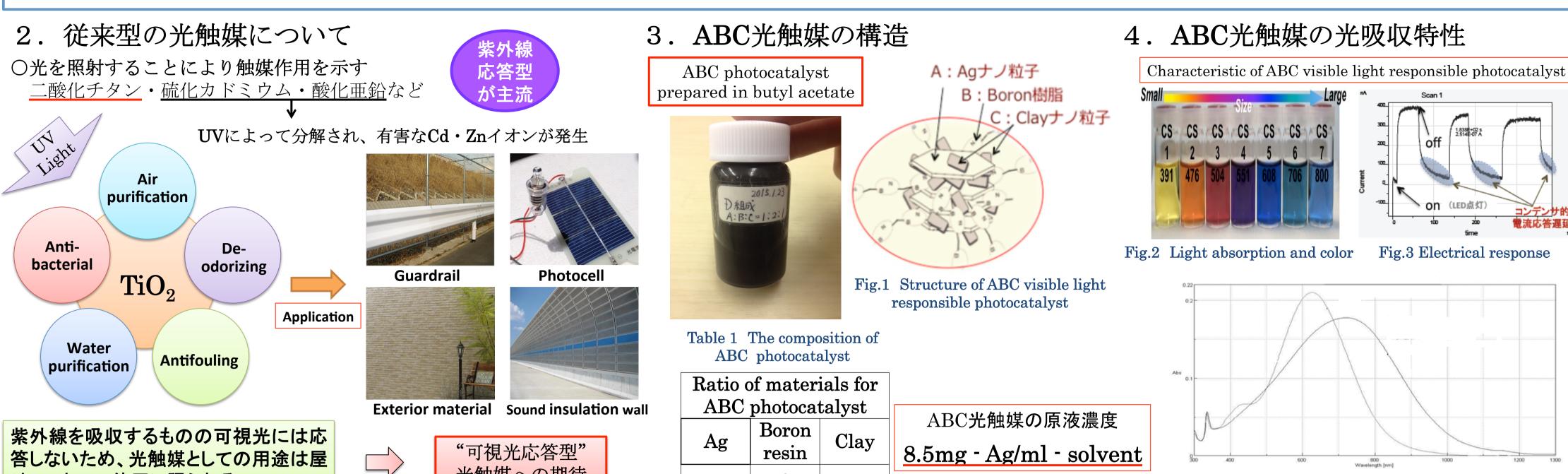
Assay for antibacterial activity of visible light-responsible nanosilver photocatalyst by film sandwich method

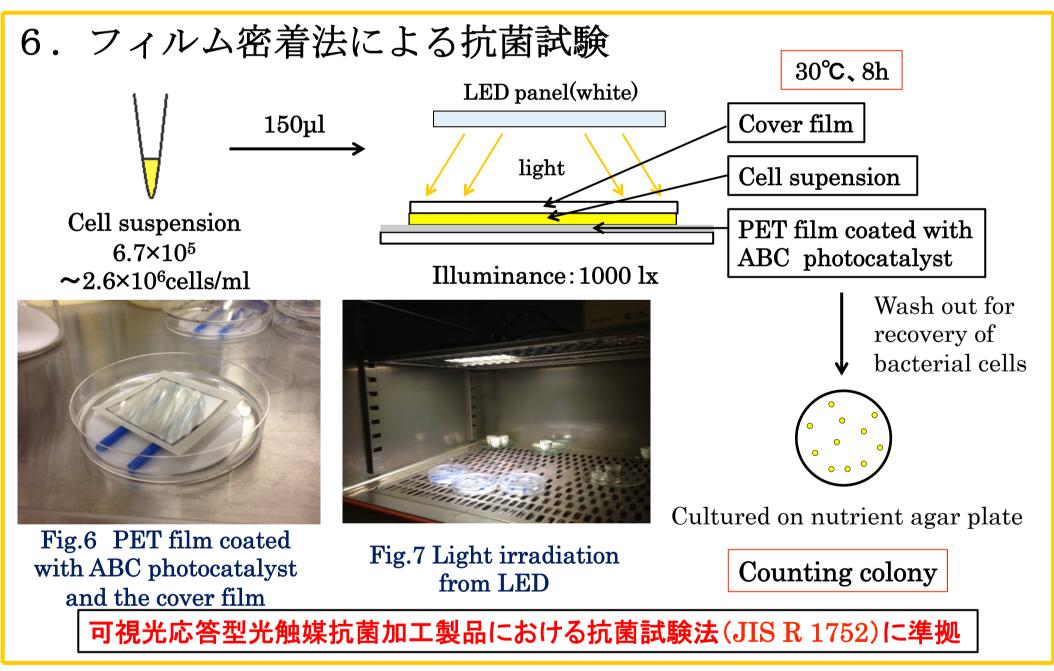
(1近大院•産理工•生環化、2伊都研究所) 〇田尻 晋太郎1、宮﨑 愛1、深野木 伸太1、伊東 謙吾2、田中 賢二1

1. 背景と目標

我々が開発した銀ナノ粒子・ホウ素樹脂・クレイから構成されるABC光触媒は、二酸化チタンと異なり可視光や近赤外線の吸収が強いため、屋内で も利用可能な光触媒として期待されている。当研究室では、抗菌剤としてABC光触媒の実用化を目指している。本研究では、実証性の高い"フィルム 密着法"による抗菌力評価を行った。検定菌には非病原性大腸菌 $\textit{Escherichia coli JCM} 1649^{T}$ を用いた。







7. 結果(大腸菌*E.coli*~の抗菌効果)

①固定化剤の厚さによる影響

Table 2 Number of survived cells of *E.coli* after exposure on PET film coated with ABC photocatalyst

A→photocatalyst: 4-fold dilution, Thickness of the binding agent: 11µm B→photocatalyst:8-fold dilution,Thickness of the binding agent:4.5µm

	A	В
conditions	survived cells (cfu)	survived cells (cfu)
PET firm,0h	6.3×10^4	$1.1{ imes}10^5$
PET film,8h/dark place	$1.2{ imes}10^5$	1.1×10^6
PET film,8h/photo irradiation	$1.1{ imes}10^5$	$5.9{ imes}10^5$
PET film treated with binder,8h/dark place	8.9×10^4	$1.4{ imes}10^5$
PET film treated with binder,8h/photo irradiation	1.1×10^5	$2.5{ imes}10^5$
Photocatalyst-coated PET film,8h/dark place	1.4×10^3	0
Photocatalyst-coated PET film,8h/photo irradiation	$2.0 imes 10^2$	0

生菌数減少

【試験区A】 暗所下→1~2桁 光照射下→2~3桁

【試験区B】 暗所下→5桁 光照射下→5桁



固定化剤の使用量(膜 厚)を薄くすることで、 光触媒の抗菌力が大 幅に向上

②光触媒濃度による影響

Table 3 Number of survived cells of *E.coli* after exposure on PET film

coated with highly dilluted ABC photocatalyst			
	C	D	
conditions	survived cells (cfu)	survived cells (cfu)	
PET firm,0h	8.9×10^4	4.5×10^{7}	
PET film,8h/dark place	$1.3{ imes}10^5$	6.0×10^{7}	
PET film,8h/photo irradiation	$1.4{ imes}10^5$	3.4×10^{7}	
PET film treated with binder,8h/dark place	1.1×10^{5}	4.2×10^7	
PET film treated with binder,8h/photo irradiation	8.0×10 ³	6.7×10^7	
Photocatalyst-coated PET film,8h/dark place	6.9×10^3	5.8×10^3	
Photocatalyst-coated PET film,8h/photo irradiation	7.6×10^{2}	3.6×10^2	

C→photocatalyst: 10⁴-fold dilution,D→photocatalyst: 500-fold dilution

【抗菌活性の計算値】

 $X = \{ log(U_{F-I}/U_{c}) - log(T_{F-I}/U_{c}) \} = log(U_{F-I}/T_{F-I})$ X:抗菌活性值 U。:直後の生残菌数

U_{F-T}: 抗菌加工なし試験片で8時間光照射した後の生残菌数 T_{F-T}: 抗菌加工あり試験片で8時間光照射した後の生残菌数

JIS R 1752 ではX≥2 の場合に光触媒機能ありと判断される

C: X=1.02

※の生残菌数を1.0×10⁵と仮定→X=2.11

D: X=5.26

【試験区C】

●光触媒の濃度を104倍希釈と非常に低く したにもかかわらず、高い抗菌活性が認め られた

【試験区D】

●暗所下で3~4桁、光照射下で5~6桁の菌 数減少がみられた



光照射の効果を評価するために、暗所下で 抗菌効果が失われる条件の選定が必要

9. 要約および今後の展望

れる条件を選定する必要がある。

- "フィルム密着試験法"によりABC光触媒の抗菌力評価を行なったところ、非病原性大腸菌*E.coli* に対して暗所下においても大きな菌数減 少が認められ、さらに光照射による抗菌力増強効果も確認された。暗所では銀による抗菌作用が、可視光照射下では光触媒による抗菌作用が
- 働いていると考えられる。 ■PETフィルム上では光触媒の吸着状態によっても抗菌活性は大きな影響を受けると考えられたため、固定化剤の膜の厚さを薄く(4.5µm)し たところ、より大きな抗菌活性が得られた。PETフィルム上への固定化方法を改善することで、さらに抗菌活性を高めることができると考え
- ている。 ■ABC光触媒は、暗所下でも高い抗菌活性を示した。しかし、光照射の効果を微量で正確に評価するためには、暗所下で抗菌効果がほぼ失わ
- ●検定菌を拡大(緑膿菌や黄色ブドウ球菌などの病原細菌等)し、さらに抗ウイルス活性やアレルゲン失活作用があるか検証を行なう。